

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

平成30年 1月26日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員
片 岡 慶 行
北 川 一 清

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成30年1月14日（日）～平成30年1月16日（火）

2. 調査項目

台湾 基隆市：今後の姉妹都市交流の効果的な促進について

3. 参加議員

仁友会 片岡慶行，北川一清，岩原昇（自由参加）

基隆市議会

■調査項目

今後の効果的な姉妹都市交流の促進について（表敬訪問，議員との意見交換）

・調査対応者

基隆市議会 議長 宋瑋莉氏
副議長 蔡旺璉氏
民政組 莊錦田委員長
建設組 陳江山委員長
教育組 郭林清良委員長



・調査期日

平成30年1月15日（月）10時～12時

・基隆市の概要

人口：372,019人
世帯数：150,911世帯

・調査目的

昨年4月，呉市と基隆市は姉妹都市の縁組みを行い，教育分野，スポーツ分野，観光分野など役所同士をベースとした交流が徐々に始まっている。一方で，両市議会ベースでの交流は，依然として皆無に近い状況であり，役所同士だけでなく，最終議決機関である議会同士が交流し同じ思いで今後の交流を図っていくことが必要である。

今回の視察では，表敬訪問の機会を捉え，今後の議会同志の交流のきっかけとして，相互の親睦を図り，市政の諸課題について意見交換を行うことを目的とする。

・調査内容

【表敬訪問，意見交換及び質疑応答等の内容】

- ・基隆市議会の議員定数は30名。
- ・市内7区の中選挙区制であり，議員は地元代表意識が強い
- ・7区の他，原住民枠が1名
- ・小選挙区では，得票順位にかかわらず女性枠が1名分確保されている
- ・最大党派は，中国国民党で，議員数は30名中14名
- ・現議長も現副議長も中国国民党
- ・職員は，70名もおり，議員一人に2名ずつ公費で秘書がつく
- ・秋に市長選挙があるので，政局が色々と騒がしい
- ・今後とも長く両市議会の交流を行うことと再会を約した

基隆市政府

■ 調査項目

今後の効果的な姉妹都市交流の促進について（表敬訪問、職員との意見交換）

・ 調査対応者

基隆市政府	市長	林右昌氏
	民政處	王榆森 處長
		陳智昌 副處長
	民政科	龔強 科長
		宏達 科員
	文化資產科	郭麗雅 科員
	觀光科	蔡慧婷 科員
	新聞科	錢盛日 科員



・ 調査期日

平成30年1月15日（月）13時30分～15時

・ 調査目的

基隆市長への表敬訪問を行い、姉妹都市友好関係の促進及び更なる発展を期するとともに、基隆市職員と歴史・産業・文化等、幅広く意見交換を行い、今後の姉妹都市交流を両市にメリットのあるものにして行くためのヒントを探ることを目的とする。

・ 調査内容

【表敬訪問、意見交換及び質疑応答等の内容】

- ・ 呉市議会議員の再度の訪問に感謝し心から歓迎する
- ・ 姉妹都市提携により結ばれた両市の絆を今後より強固にしたい
- ・ 呉市議会議員には、各分野での交流促進の強力な応援団になってほしい
- ・ 基隆市は、日本統治時代に港灣が大々的に整備され発展の基礎となった
- ・ 当時、基隆港は帝国海軍の軍港となり、現在も中華民国海軍の基地である
- ・ 大戦末期には、米軍の空襲を受け大きな被害が出た
- ・ 街の成り立ちや歴史は呉市と本当に似通っている
- ・ 三方を山に囲まれ、海に面し、街中に川が流れる地形もよく似ている
- ・ 基隆市は伝統的に国民党が強いが、現在は民進党の林市長が改革している
- ・ 台湾の市長は、法律で2期8年までに制限されている
- ・ 市長は、限られた期間の中で実績を挙げる必要がある



- ・基隆港は、台湾でもトップのコンテナ扱い量で国際物流は一大産業
- ・数年前に海軍基地を少し縮小して、国際クルーズ船の停泊地を整備した
- ・国際クルーズ船の寄港場所として、毎日違う豪華客船が入港する
- ・豪華客船からの立ち寄り客は、台湾一の規模の夜市を堪能し消費する
- ・基隆の廟口（ミャオコウ）夜市は、いかにもアジアらしく、国際的に見ても他にない大きな魅力である

基隆市立安楽高級中学

■調査項目

今後の効果的な姉妹都市交流の促進について（教育交流の促進）

・調査対応者

基隆市立安楽高級中学 方保社 校長
 家長（PTA）会長
 教員数名
 生徒会役員



・調査期日

平成30年1月15日（月）15時30分～16時30分

・調査目的

市立呉高校と姉妹校の提携を視野に交流を継続している基隆市立安楽高級中学を表敬訪問し、市議会として交流の現状を把握するとともに、姉妹校提携に向けた今後の交流を促進する一助となることを目的とする。

・調査内容

【表敬訪問、意見交換及び質疑応答等の内容】

- ・学校到着時、校長を始め、多数の生徒、教職員、学校のマスコットキャラクター等20名程の方々の熱烈な歓迎を受けた
- ・呉市立呉高校とは、来年度中の姉妹校提携を目指し交流を継続している
- ・昨年10月に市立呉高校の生徒会執行部が安楽高級中学を訪問、丸一日交流した
- ・先般もインターネットのスカイプを使用してテレビ電話で交流した
- ・呉高校だけでなく、日本の高校との交流もさらに発展させていきたい
- ・台湾の義務教育は6，3制の計9年間で日本と同様
- ・高級中学は、日本の普通科高校に相当し3年間
- ・安楽高級中学は、中高一貫校で、高校は12学級、生徒数約400名



- ・ 中学も合わせた全校では、生徒数は1,000人超、教員約100名のマンモス校
- ・ 新学期は秋からで国際基準、そのため海外留学にも支障はない
- ・ 夏休みは8月～9月の2ヶ月間、冬休みは2月中旬の旧正月に2週間
- ・ その分、普段の授業は8時から17時までの8時間授業と結構長い
- ・ その他生徒が製作した高精度の画像合成装置などを体験し感心した
- ・ 3Dプリンタを駆使した作品もあり、科学技術系の教育レベルはかなり高い

その他

移動日の1月14日及び1月16日の両日、空き時間を活用して基隆市内及び台北市内の次の観光資源の視察を行った。

- ・ 国立海洋科技博物館（基隆）
- ・ 忠烈祠（台北）
- ・ 国立故宮博物院（台北）

いずれも、観光資源として優れたものであり、市民が呉から基隆を訪問する場合はぜひ訪れるべき場所であろう。なお、国立海洋科技博物館では、基隆市政府の手配により特別に日本語説明員の呉翎禎氏の案内をいただくことができた。

まとめ

【呉市での展開の可能性】

今回の訪問では、基隆市議会と呉市議会とが交流をはじめのきっかけを作り、呉市と同様、基隆市においても政府（市役所）、議会が市民レベルでの本格的交流に向け、一致して推進する態勢を整える一助となることを最大の目的としていた。

呉市議会から基隆市議会を訪問するのは、今回を含め2回目、一方、基隆市議会は、姉妹都市締結式にも誰一人出席せず、これまで呉市を訪問されたことはない。

現基隆市長は、歴代市長で初めての民進党市長であり、国民党が多数を握る議会とは、政治的に対立する関係である。そのような中、市長が進める姉妹都市事業に対して議会は必ずしも好意的ではなかったと聞いている。

そうした状況の中ではあるが、議長のみならず、副議長や常任委員会の委員長さんまでご出席の上、大変な歓迎をいただくとともに、市政の課題について様々な意見交換を行い、国は違えど議員同士共感し合い、今後の交流の継続と再会を約束できたことは、大きな成果であった。議会同士の交流の促進は、必ずや今後の基隆市と呉市との市民レベルでの交流へとつながるものと確信している。

また、議員や市政府職員等、今回の視察の中で多くの関係者と意見交換を行ったが、その中で呉市が取り組む台湾インバウンドに関して、いくつかヒントを得ることができた。

台湾の方が日本に求めるもの。観光のキーワードは、「雪」、「日本的な景色」そして「温泉」であると聞いた。こうしたニーズを満たし、喜んで台湾から来て

いただくためには、呉市単市での取組として「大和ミュージアム」をメインに推進するだけでは、明らかに力不足である。

幸い、呉市から一步踏み出し、県内の市町に視野を広げると、これらのキーワードはすべて用意できるものばかりである。したがって、今後のインバウンドの進め方として、広島県や県内市町と連携した取組が極めて重要であると考えます。

また、広島県の中でも呉市に誘客するためには、「大和ミュージアム」に加えてインパクトのある観光資源が必要となる。ひとつの案として、日本有数のものづくりの街である呉市に立地する様々な企業を活用した産業観光が目玉にならないか、市政府で意見を聞いてみたが、非常に好反応であった。

産業観光として呉が国際的にアドバンテージを持っている様々な製造工場等を見学いただくことができれば、呉ならではの魅力となり得るばかりか、受入企業にとっても新たなビジネスチャンスにつながる可能性もある。

一例として、台湾では日本酒が大人気であり、台湾人向けに、呉の地酒の製造工場の見学、試飲、購入等セットでの産業観光を企画できれば、可能性は大きいと感じた。

また、インバウンドは片側交流では長続きしないことは明らかである。呉からも基隆を大勢が訪問してもらうことも考えていく必要がある。

今回、限られた時間の中で、空き時間を活用して基隆市及び近隣の観光資源の視察も行ったが、一口で言って、基隆市観光の最大の魅力は自然景観と夜市の食と喧噪であり、歴史や文化を体感できる観光資源には比較的恵まれていないと感じた。呉から基隆に大勢の市民に行ってもらうには、台北の歴史的、文化的な観光資源とセットで検討する必要がある。

基隆を訪れるには、空港のある台北市を必ず通過するわけであり、基隆市と隣の台北市をセットで観光することはむしろ自然であると言える。

蛇足ではあるが、一般的に台湾は親日的にとらえられているが、その昔、中国本土で旧日本軍と戦った歴史を持つ国民党は、確かに親日派も多いものの必ずしも単純ではなく、反日的傾向も強く併せ持っている側面もあると現地で聞いた。

また、基隆市は、戦後中国本土から渡ってきたいわゆる「外省人」が多いため、国民党が強い勢力を維持していると聞く。そうした部分も今後の交流を考えていく際のひとつの要素として意識しておく必要があると考える。

一方で、基隆市の発展の基礎となった港湾施設をはじめ、基隆市政府庁舎や国立海洋科技博物館などは、日本統治時代のものをそのまま利用しており、日本人が作ったものは大変頑丈に作っており今でも利用できるとして、日本には大変感謝しているとも聞いた。社交辞令も含んでの言葉とは思いますが、実際そうした親日的な言動も折に触れ見聞きした。呉市側もこうした友好感情をベースに、未来志向で今後の姉妹都市関係を進展させていくべきである。

いずれにしても、今後長きにわたり相互の利益になる交流関係を構築していくことが重要であると考えます。

以上